職場アンケートをみる

三千円欲しい27％

「黒い汗」が多種目集約

組合員、分会員はどう考え、どういう意見を持つているだろう?ということは一番大きな問題であり、また一番難しい問題でもある。これをどうキヤツチするかがあらゆる手段で講じられているのだが、さいきん宮浦支部第十二分会では分会員に職場新聞「黒い汗」を通じて各種目にわたるアンケートを集約した。以下各種目にわたる第十二分会の人たちのアンケートとその回答をのぞいて参考にしてみよう。（数字は％をあらわす）

○毎月読んでいる新聞、雑誌

【新聞】西日本49　朝日30　フクニチ13　スポーツ15　毎日10

【雑誌】各種週間誌33　平凡7　文芸春秋7　小説新潮7

○あなたの月収はいくらか、また万数は?

【月収】一万三千36　一万四千15　一万五千15　一万二千11　二万11　一万八千4　二万二千4　二万三千4

【万数）二五万32　二六万28　二三万18　二七万15　二四万7

○現在の収入で満足か。少い人はその金額を。

不満足100　良い0

【不足額】三千円27　五千円21　二千円15　六千円9　四千円9　千円4　不明15

○現在の職場苦情処理について

良い70　悪い12　不明18

（当分会は四職種の合同分会。職種の小さな問題は代議員、大きな問題は正式の会議で解決を計つている）

○新賃金一万八千円、期末手当三万五千円の要求をどう思うか。

やむを得ぬ48　低すぎる40　良い12

（金額をとるためにやむを得ぬ他産業とくらべて低いという意見が多い）

○杵島支援ストについて。

よかつた67　悪かつた18　不明15

（階級的連帯性の立場から当然だ。さらに全労働者の闘いに発展させるべきだ。反対は家計に響くからというのが多い）

○次回の選挙には何党を支持しますか。

社会党64　共産党6　自民党3　なし27

○機関紙「黒い汗」発刊について

よかつた88　悪かつた3　不明9

○委員、分会役員にたいする批判要望。

分会はよくまとまつていて役員は良心的である。もう少し全員の声を聞き皆が発言できる職場にすべきだ。委員と他の者との間隔が大きい。現実に立脚してものごとを処理せよ。役員間、職種間の連絡は緊密に。

○係長、係員への要望、批判

われわれと話合う態度が少い。係長の存在がはつきりしない。苦情処理は良心的に親身になつて早く解決してほしい。

○組合運動にたいする批判、要望

官僚主義の克服。個人の創意性尊重、職場に基盤をおいた組合運動組合を政党人の集りにしないように。本当の統一行動、理にかなつた組合運動をやつてもらいたい。その他は大体よい。

映画

意欲的に描く"青春"

吉村監督の「地上」

作品は若くて世を去つた作家島田清次郎が大正八年に発表し、たちまちベスト・セラーとなつた作品。吉村公三郎監督が少年時代この小説を感動して読んだというだけあつて、映画はきわめて意欲的なものになつている。

大正中期、舞台は加賀百万石の城下町として栄えた金沢。金沢中学の生徒大河平一郎（川口浩）と鋳物工場の社長の令嬢吉倉和歌子（野添ひとみ）の若い恋の物語。

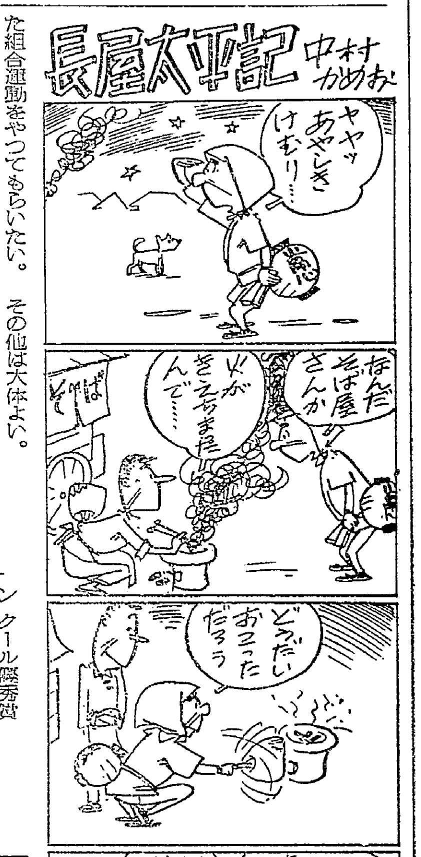
平一郎は、遊郭の針仕事で暮しをたてている母（田中絹代）の手一つで育てられてきた正義感の強い子だつた。幼いころから知りあいだつた和歌子との間に淡い慕情が芽ばえはじめたころ、平一郎の友人吉田が働いている工場が首切り反対のストライキに入つた。その工場の社長が和歌子の父なのである。

労働者は籠城して頑張るが、東京からかけつけた天野財閥の政客天野一郎（佐分利信）のさし金による警察の弾圧で破れ去つてしまつた。平一郎は吉田の激励にいつたばつかりにストを応援したという理由で学校を追われ、社長令嬢を誘惑したという汚名まで着せられた。そのため母の仕事も奪われてしまつた。母子二人は新しい出発を求めて東京へ旅立つていつた。和歌子は汽車を追い線路にすがりついて激しく泣きじやくるのだつた。

この話を中心に、田舎から遊郭に売られ、さらに天野に買われてゆく芸妓冬子（香川京子）をからませ、古い因習にふみにじられる青春と、ふまれながらも生きぬこうとする青春の力というようなものを描いている。

話はところどころ説明不足もあるが、問題をあくまで社会的にとらえようとした意欲を買いたい。（十三日よりグランドで上映）

【写真はその一コマ】


長屋太平記　中村かめお
ヤヤッあやしきけむり……
なんだそば屋さんか
火がきえちまたんで……
そば
どうだいおこっただろう
あしたもおこしてあげるよ…
いやもうけっこうです

大カップ等14個

機関紙・文芸用の賞品

例年行つている新年文芸と昨年に引続き実施する地域、職域機関紙コンクールの実施要項は、すでに掲示や本紙上で発表しているのでご承知の通りですが、入選、佳作品におくる賞品が到着しました。賞品は左の作品におくられます。

○大カップ一＝機関紙コンクール組合長杯（毎年持廻り）
○大タテ一＝機関紙コンクール優秀賞
○タテ三＝機関紙コンクール入選賞
○タテ三＝機関紙コンクール佳作
○タテ三＝機関紙コンクール努力賞
○小カップ三＝新年文芸新人賞

以上の十四個で、毎年持回り品は組合長杯の大カップだけです。なお、この他に副賞もあり夕刊フクニチ、大牟田カメラよりもそれぞれ賞品がおくられることになつていますので、奮つて応募されることを望んでいます。とくに機関紙コンクールを編集部あて送付されるときは必ず「コンクール参加紙」と朱筆で明記して送付されるようお願いしておきます。

新制作座公演

"愛の妖精"

組合主催・15日市民会館で

三鉱労組として初主催の文化公演が行われるが、これは来る十五日市民会館に劇団新制作座を招いて「愛のよう精」の上演に決定した。当日は午後一時と六時の二回にわたつて公演される。

新制作座は「泥かぶら」「馬五郎一座顛末記」「ああバラの花はどこに咲く」「蔵の巣村快挙録」など大衆とともに歩く劇団として新劇界に新風を送つている演芸として特異の注目を集めている。

脚色…真山美保、南冴子
演出…真山美保、まき村浩吉

【ものがたり】

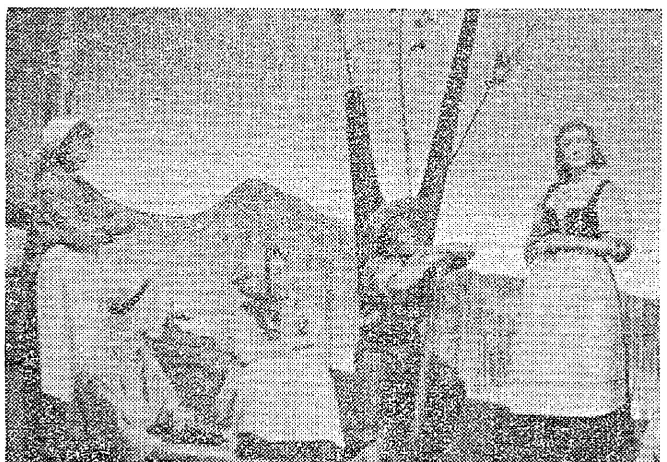
フランスの片田舎、すももや桜んぼの果樹園とぶどう畑とくるみの木立に囲まれたつつましく平和な村の物語です。

汚いこおろぎというあだ名のファデットとバッタといわれるびっこのジャネエの姉弟は、村の若者達からいつも悪口をあび、いじめられていました。二人はファデエ婆さんの孫で、貧しくみつともない身なりと意地の悪いいたずらと村人に反抗するだけで生きていたのです。石つぶてに逃げまどいながら二人は叫びます。

"ちきしよう、豚どもめ。みんなろくな人間じやない!!"

村一番の金持はバルボウ。その息子のランドリイは、嵐の日、河つぷちで危い兄さんのシルヴィネを助けましたが、それは居所を教えてくれた"こおろぎ"のおかげでした。その代りファデットはランドリイと約束しました。それは一「助けてくれた恩返しに、聖アンドツシユの祭の日、一緒にブウレ踊りを踊ること」

年に一度のお祭りが来ました。



マルタンはルイズとピエエルはリユセツトとランドリイは幼なじみの美しいマドレエヌと、みんなの踊りが初まりました。祭りがたけなわになつた時、異様な身なりで眼をぎようつかせたファデットが現れました。そして村一番の若者ランドリイと踊り出したのです。ランドリイは約束を守るために、大嫌いなファデットと踊つたのです。

初めは開いた口もふさがらない美しく着飾つた若者達も、遂には二人をとり囲みました。祭りを乱す"こおろぎ"をさんざん罵倒しはてはそのみつともない頭巾を棒の先にかかげ、"こおろぎ"のわめき声に高笑いしたのです。この時ランドリイの心に激しい怒りと強い正義感が湧き起りました。馬鹿にされ辱しめられるファデットをかばつて、ランドリイは立ちました。

"心のみにくいお前たちが……

× × ×

なお整理券（三十円）を発売していますので、支部教宣部で求めて下さい。

上演に当つて

「愛の妖精」は世界の名作の一つに数えられ、今日までに各国語に翻訳され、国境をこえ時代をこえて、多くの人に愛され感動を与えて来たものです。このたび私たちがこの作品の脚色上演を企画いたしましたのは、ただ世界的名作の紹介というだけの理由ではなくジョルジュ・サンドの貧しくて正しい庶民大衆への愛と信頼の心が時代と国境をこえてこの混乱とタイ廃に悩む現代日本に住む私たちの精神の衰弱を防ぎ、明日へ力強く生きる勇気と希望と指針とを、間違いなく与えてくれると信ずるからです。（真山美保）

「人工衛星」映画

各国で製作

【ソ連】「人工衛星」では本家であるソ連は今や実現可能となつた宇宙への旅に観客を招待しようと科学映画「宇宙への道」を作つた。三段ロケツト式の宇宙船第一号が地球を離れてから、宇宙を一巡して地球に着陸するまでの話を科学的物語りにまとめたもので、宇宙ステーション第一号の建設、つづいて夢とスリルに富んだ月世界の都市建設と生活の模様などがえがかれている。この映画は宇宙がいかに征服されていくかをできるかぎり真実に近く科学的にえがくために、ソ連の科学者グループが協力したとタス電は伝えている。

【アメリカ】空想科学映画で「宇宙と子供たち」。ウイリアム・アランド・プロの作品である。この映画は地球上のあらゆる原子兵器を絶滅させようと思いたつた子供たちの一団が、ある惑星に住む物と力を合せて目的をたつするという物語り。

【日本】製作したのは東都映画という耳新しい会社だが、さきにジラード事件「弾拾い」を発表したところ。題して「宇宙世紀に挑む」。これはソ、米、英など各国の資料を豊富にとり入れ、人工衛星―宇宙をわかりやすく解説したもので教育映画としても娯楽ものして楽しめる作品である。（トト・スコープ、二巻・一七〇〇イート）。

〈今週の映画〉

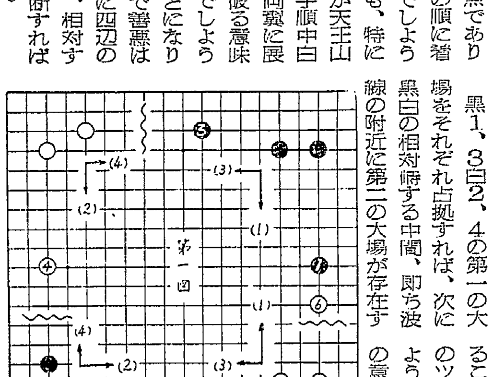
○東映（10―16）どたんば（OS）鬼面竜騎隊（後）
○銀星（11―17）ボス、男の世界
○グランド（13―21）地上、鬼火駕籠
○セントラル（11―17）八月十五夜の茶屋、ノートルダムのせむし男
○太陽館（11―17）脱獄囚、続青い山脈
○大天地（11―17）風前の灯、[illegible]花
○名画座（11―17）勇者カイヤム（V・V）栄光への旅路
○金映（11―17）風前の灯、恋の乱調子
○富士（11―14）愛情物語
○宇宙館（11―14）喜びも悲しみも幾歳月、石松と追分三五郎
○中央映劇（11―13）アスファルトジャングル、悪徳警官
○シネマセンター（10―14）二世部隊、底抜けびつくり仰天

囲碁教室（36）

邊での彼我対峙が多く大場に当る

第一図、白黒二隅づつシマツているこの局面で、大場は四辺の中央に四カ所あります。この中でも黒1の点が随一の大場です。

まずこの四つのシマリの発展の方向と大きさを調べてみますとシマリの石の高低によつて、(1)の方向が最大で、次に(2)、(3)、(4)の順に小さくなります。従つて(1)と(1)の相会う中間1の点が最大で、双方必争の要点であり次に白2、黒3、白4の順に着手すべきことがお分りでしょう即ち彼我対峙の中央でも、特に「双方高い場合の中央が天王山」となるのです。右の手順中白2は、黒のシマリから両翼に展開する、理想的布陣を破る意味で3に打つこともあるでしょうすると黒は2に打つことになります。これも一局の碁で善悪はいえませんが、要するに四辺の大場の選択に当つては、相対する石の高低に従つて判断すれば大体間違いありません。

黒1、3白2、4の第一の大場をそれぞれ占拠すれば、次に黒白の相対峙する中間、即ち波線の附近に第二の大場が存在することになります。黒5、白6のツメも、第一の大場の時と同ように考えてみれば自づからその意味もお分りと思います。黒から相手にひびくツメは5と4の方と二カ所ですが、ヒラキとしては、5の方が4の方より大きく、また13の方からのツメは、白にはひびかないのです白6も同ようです。（ツメの項参照）